第74号 2022.5 発行

すこやか通信

医療法人社団 豊生会

東雁来すこやかこどもデイサービスセンターより毎月情報を発信します！

新年度がスタートして、早くも1ヶ月が経ちました。新生活にはそろそろ慣れてきた頃でしょうか。
北海道も青空が広がる爽やかな季節へと向かい、戸外活動や散歩が楽しくなりそうですね。

おたふくかぜとおたふくワクチンのお話し

おたふくかぜ（流行性耳下腺炎・ムンプス）とは

ムンプスウイルスの感染によっておこる全身性の感染症

■感染経路はどこから？

基本は飛沫感染
また唾液から直接・間接の接触感染もあります

■感染させる可能性がある期間

耳下腺（耳の下周辺）の腫れがでてくる前後5日程度！！！

■学校の出席停止期間はいつまで？

【耳下腺・下顎腺・舌下腺の腫脹が発生してから5日経過するまで、かつ全身状態が良好になるまで】

■おたふくかぜの症状

主に耳下腺（耳下）の腫脹、疼痛がみられます。
3日ほどでピークを迎え、7日かけて消退。発熱、顎下腺・耳下腺が腫脹や圧痛を伴うことがあります。

おたふくワクチンとは

おたふくかぜを予防するワクチンです

■いつワクチン接種すればいいの？

1歳から摂取可能となり、おたふくかぜに罹ったことのない方は接種できます。

- 1回目：1歳～3歳の誕生日前 — 札幌市から3000円の助成金があります（札幌市民のみ）
- 2回目：年長さん — MR ワクチンと一緒に受ける事が多いです

■妊婦さんとおたふくワクチン

妊娠中や妊娠の可能性がある方はワクチンを受けられません。
・大人のワクチン接種を希望される方
ワクチン接種前1ヶ月と接種後2ヶ月は避妊しましょう。

■おたふくと難聴

ワクチンによる難聴発生頻度はほとんどなしとされています。それに対し自然におたふくかぜになった場合400～1000人に一人の割合で難聴（ムンプス難聴）を発症すると言われています！！ムンプス難聴の多くは高度～重度の難聴で現在治療法はありません。

自然におたふくかぜになったときとワクチンによる合併症でのそれぞれの症状の頻度

症状		自然感染	ワクチン
耳下腺炎		70%	3%
無菌性髄膜炎	細胞増多	50%	不明
	症候性	3～10%	1/1,000～10,000
脳炎		2～30/10,000	4/1,000,000
難聴		1/400～20,000	※1 ほとんどなし
睾丸炎		※2 25%	ほとんどなし
両側腫脹		※2 10%	ほとんどなし
乳腺炎		※2 15～30%	ほとんどなし
卵巣炎		※2 5%	ほとんどなし
膵炎		※2 4%	ほとんどなし

※1 詳細な頻度は不明　※2 思春期以降の頻度(小児では稀)

庵原俊昭：臨床と微生物32(5)：481，平成17(2005)年

おたふくかぜ(ムンプスウイルス)の大事なまとめ

- ☑ 耳の下のはれ、痛み
- ☑ 発熱
- ☑ うつりやすい
- ☑ 難聴に要注意
- ☑ 予防接種が大事

（札幌市病後児保育事業）東雁来すこやかこどもデイサービスのご予約・ご利用は下記までお問い合わせを！

☎ 011-790-2030（電話での対応は平日午前8時～17時　土曜午後12時までとなっております）

対象のお子さん　生後５か月から小学校６年生まで。　利用定員　４名

ご利用必要書類　児童登録票・利用連絡書・利用申込書（札幌市HPよりダウンロード可能）　http://www.houseikai.or.jp/sukoyaka/sukoyakakodomo.html

◆ 発　行 / 2022年5月　◆ 発行元 /東雁来すこやかこどもデイサービスセンター　〒007-0030 札幌市東区東雁来10条1丁目12-12